

週刊東日 全2巻 復刻版概要

- 体 裁 II B4判・上製・総496頁
- 収録 II 第1号〜第101号（49年1月〜50年12月）
 - 『東日ダイジェスト』第1号〜13号
 - 『週刊東日』第14号〜第93号
 - 『東京レポート』第95〜101号
- 協 力 II 東京大学大学院情報学環、国立国会図書館、
メリーランド大学ゴードン・W・プランゲ文庫
- 推 薦 II 土屋礼子
- 揃 定 価 II 本体58,000円+税
- ISBN 9781418350178 4615
- 刊 行 II 2016年3月



▲第87号（1950年8月30日）

● 関連図書のご案内

夕刊新大阪 復刻版 全10巻・別冊1

体裁 II A3判・上製・総2,838頁
別冊 II 解説・主要記事索引
解説 II 浦西和彦
推薦 II 田辺聖子・谷沢永一・山内祥史・山本武利
揃 定 価 II 300,000円+税

本紙は1946年2月4日に創刊された横長の夕刊紙である。大新聞紙面には文化欄が殆どなかった時代に投書欄と学芸欄、さらにはスポーツ欄に大きなスペースを割き、文化新聞として独自の地位を築いていく。学芸欄には武田麟太郎、石川達三、大佛次郎、田村泰次郎らが連載小説を発表し、地方紙でありながら全国レベルの多くの作家が文芸批評や作品を寄稿している。

うるま新報 復刻版 全6巻

体裁 II B4判・上製・総1,962頁
解説 II 新崎盛暉・丹野喜久子
推薦 II 小川政亮・我部政男・福島鑄郎・宮城悦二郎
揃 定 価 II 168,000円+税

『うるま新報』は、1945年7月に創刊された。当時の沖縄において、ニュース源は米軍政府からのものが多く、本土からはラジオ放送を傍受して記事にしたものが多い。また、各地の収容所で窮乏生活を余儀なくされていた県民にとっては唯一の情報源であった。当時の県民の姿を知る貴重な資料として復刻刊行。

復刻版

週刊東日

戦後復興期の大衆文化を窺える 週刊タブロイド紙を復刻

1949年1月に東京日日新聞社が創刊した週刊タブロイド紙『東日ダイジェスト』はその後『週刊東日』、『東京レポート』と改名し1953年まで刊行された。その内容は芸能・スポーツ記事をはじめ、政治・経済情報や流行のファッションなど当時の世相をふんだんに伝えている。いずれもほとんどの研究機関に所蔵されていない貴重資料であり、今回の復刻では1949年1月2日発行の第1号から1950年12月25日発行の第101号までを収録し、ジャーナリズム史、文化史研究をはじめ広く戦後史研究に供する。



▲第49号（1949年12月7日）

復刻版全2巻
体 裁 II B4判・上製・総496頁
揃 定 価 II 本体58,000円+税
推 薦 II 土屋礼子
収 録 II 第1号〜第101号（49年1月〜50年12月）
協 力 II 東京大学大学院情報学環、国立国会図書館、
メリーランド大学ゴードン・W・プランゲ文庫

不二出版

表示価格はすべて税別

不二出版
〒113-0023
東京都文京区向丘1-2-12
電話03-3812-4433
ファクシミリ03-3812-4464
振替0016002940884

占領期のあだ花的週刊紙とメディア人・鈴木郁三

土屋礼子（早稲田大学政治経済学術院教授・20世紀メディア研究所所長）

ようやく新聞用紙の生産が好転し始めた1949年1月に『東日ダイジェスト』は誕生した。発行元は東京日日新聞社で代表は鈴木郁三で当時46歳。彼は戦後千草書房を興し、1946年『子供マンガ新聞』を創刊、子供マンガ新聞社社長となっていたが、1948年11月に、松本重治等が戦後まもなく創刊した政論紙『民報』で名高かった東京民報社を、毎日新聞社の後ろ盾で買収した。経営難だった民報社は解散、用紙割当権が目当てで譲渡された『東京民報』と『サンデー民報』は、それぞれ夕刊紙『東京日日新聞』と、週刊紙『東日ダイジェスト』に変身した。つまり、朝刊さえ2頁だった紙不足の当時、用紙統制の中で毎日新聞社が夕刊発行のステップとして、すでに1943年に消えた老舗『東京日日新聞』の名を復活させ、自社の『協力夕刊紙』として別会社に発行させたのであり、『東日ダイジェスト』はその週刊紙版であった。

1948年12月に新創刊された『東京日日新聞』は、翌年には東京新興夕刊紙としては最大の18万部に達したが、1949年11月に毎日新聞が『夕刊毎日新聞』を発行し始めたため、夕刊旋風の中で次第に劣勢になり、1955年で休刊に至った。同様に『東日ダイジェスト』も『週刊東日』次いで『東京リポート』と名前を変更し、1953年まで継続した。紙面に国際政治や事件記事の他、映画や娯楽的な読み物が多いのは、大衆的週刊誌の殆ど無い時代に、週末にゆっくり楽しみたい読者を想定しているからであろう。

鈴木郁三はこれらの新聞発行を手がける傍ら、1949年12月に毎日新聞社内にも東日興業を設立、翌年マキノ正博監督の『傷だらけの男』、また初の日米合作映画『東京ファイル212』を製作した。しかし、1952年には東日興業を売却、1953年には『子供マンガ新聞』も廃刊、改組して世界文化社を設立、1958年から『家庭画報』を創刊した。『週刊東日』は、占領期のメディア人としての彼の足跡を考える上でも、興味深い資料である。

内容見本



最悪の事態に点火

トールマ大統帥が昨日、朝鮮の戦線に開進して米軍部隊を激しく攻撃している。記者団は、この大規模な攻撃は、米軍の防線に大穴を開け、米軍の大退却を招くであろうと見ている。米軍は、この大規模な攻撃に、大規模な反撃を準備している。米軍は、この大規模な攻撃に、大規模な反撃を準備している。米軍は、この大規模な攻撃に、大規模な反撃を準備している。



週刊東日 SHUKAN TONICHI

ボロモウケあの手この手 インチキ広告の正体をあばく 初夏の映画紹介とスケジュール

バンドマンやモデル 血を賣つて酒代

下宿の借四五千円 手帳を盗まれたバンドマン。酒代を稼ぐために、バンドマンやモデルは血を賣つて酒代を稼ぐ。下宿の借四五千円、手帳を盗まれたバンドマン。酒代を稼ぐために、バンドマンやモデルは血を賣つて酒代を稼ぐ。



学生は何を考えているか

学生は何を考えているか。学生は、何を考えているか。学生は、何を考えているか。学生は、何を考えているか。学生は、何を考えているか。

朝鮮 樺太 その後の表情

朝鮮 樺太 その後の表情。朝鮮、樺太、その後の表情。朝鮮、樺太、その後の表情。朝鮮、樺太、その後の表情。朝鮮、樺太、その後の表情。

空腹に松の皮

空腹に松の皮。空腹に松の皮。空腹に松の皮。空腹に松の皮。空腹に松の皮。



吉村 監督 松竹を去る

吉村 監督 松竹を去る。吉村、監督、松竹を去る。吉村、監督、松竹を去る。吉村、監督、松竹を去る。吉村、監督、松竹を去る。

サラリーマンと株

サラリーマンと株。サラリーマンと株。サラリーマンと株。サラリーマンと株。サラリーマンと株。

全島てんやわんや

全島てんやわんや。全島てんやわんや。全島てんやわんや。全島てんやわんや。全島てんやわんや。

二社はチョンゲ作品

二社はチョンゲ作品。二社はチョンゲ作品。二社はチョンゲ作品。二社はチョンゲ作品。二社はチョンゲ作品。